

# 東アジア共通の家

An East Asian Common House : long perspective and partnership

## アジアに今何ができるか—

2012年12月7日(金)–12月9日(日) Date: 7-9 December 2012

申込締切/2012年11月1日(木) 場所/湘南国際村センター(神奈川県葉山町)

Application Deadline: 1 November 2012 Venue: Shonan Village Center (Hayama-machi, Kanagawa)



アジアを読み解く5つのテーマ



### 基調講演

Keynote Lecture

テーマ Theme

## 「アジアとヨーロッパのはざま —日本の文明史的位置」

Between Asia and Europe—Historical Position of Japanese Civilization

樺山 紘一氏 Koichi Kabayama

(印刷博物館館長、東京大学名誉教授)

(Director of the Printing Museum, Tokyo; and Professor Emeritus, the University of Tokyo)



プロフィール Profile/専門は、西洋中世史、西洋文化史。東京大学教授、国立西洋美術館館長を歴任し、2005年10月より現職。著書に『ゴシック世界の思想像』(岩波書店)、『カタロニアへの眼』(刀水書房)、『西洋学事始』(中公文庫)、『ヨーロッパの出現』(講談社)、『歴史のなかのからだ』(岩波現代文庫)、共編著に『解はひとつではない』(慶應義塾大学出版会)ほか多数。

### セミナー プログラム Seminar Program

※都合によりプログラム、講師は変更する場合があります。

- 12月7日(金)
  - 17:00 受付開始
  - 18:00 夕食
  - 19:00 開会式
  - 19:15 基調講演 (共通セッション I)
  - 20:45 分科会説明
  - 21:00 分科会演習 I (22:00まで)
- 12月8日(土)
  - 9:00 分科会演習 II
  - 12:00 昼食
  - 13:00 特別セッション (共通セッション II)
  - 14:30 休憩・自由行動
  - 16:00 分科会演習 III
  - 18:00 夕食
  - 19:00 分科会演習 IV (22:00まで)
- 12月9日(日)
  - 9:00 分科会演習 V
  - 12:00 昼食
  - 13:00 分科会発表 (共通セッション III)
  - 15:30 閉会式

主催  
Organized by  
協力  
cooperation by

KIF 公益財団法人かながわ国際交流財団  
Kanagawa International Foundation (KIF)  
インカレ国際セミナー組織委員会  
Inter-college International Seminar Organizing Committee

神奈川県  
Kanagawa Prefecture

インカレ 学術 検索

インカレ国際セミナー組織委員会委員長 Chair, Inter-college International Seminar Organizing Committee  
黒川 修司 (東京女子大学教授) Shuji Kurokawa (Professor, Tokyo Woman's Christian University)

湘南国際村で開催されるインカレ国際セミナーは、多くの大学からの参加者を得て、同じ場所で同じテーマを議論すること10回目になります。単位にならない、お金がかかる、東京からは遠い場所で、睡眠時間を削ってまで議論を交わして、分科会の共通意見を発表しています。



なぜ、学生諸君はこんな苦勞をするのでしょうか？ゼミの教授から強制された結果なのでしょう。それだけではないはずです。学問というものは、独善的であってはならず、しかも社会科学としては現実を見つめながらも、理想を忘れずに議論をすることが不可欠だからです。自分の実力を客観的に見直す良い機会であり、他大学の教員からの指導を受けるまたとない機会でもあるのです。

私が参加する学生諸君に求めることは、受身に終始するのではなく発信をする努力です。この3日間は教員から教えてもらう場ではなく、事前にテーマとセクションで指定された参考書を読んで、自分なりの意見を持って、富士山と相模湾を望む素晴らしい環境の湘南国際村に来ていただきたいのです。若さと体力で活発な議論を交わして、セクションごとに一定の提言を纏めることが必要です。

昨年は3・11の経験を生かしてサブ・タイトルを「市民社会と連帯」として、日本と東アジアの国際協力と連帯を重視した基調講演者をお二人お招きして、セクション分けをしました。

今回のインカレ国際セミナーは「東アジア共通の家—アジアに今何ができるか」と題して、2泊3日の短い期間に、「東アジア文化交流史」「アジアの経済連携」「アジアにおける民主主義のゆくえ」「東アジアの安全保障環境」「環境問題」(ここは英語で議論します)の5つのセクションに分かれて、多面的に東アジア共同体の議論を行い、異なる国家、大学の枠を超えた意見交換をしたい。今年も韓国のソルブリッジ大学からの参加者を交えて、国際交流の実践も積極的にいきましょう。

10回目の記念すべきインカレです。12月にお会いしましょう。

The 10th Inter-college International Seminar will open from 7th to 9th December, 2012. This year we have an outstanding guest speaker on history and culture which will add your understanding of the East Asian Common House. As a chairperson, I asked guest to allow questions from the students. I welcome very active questions from the floor.

Last year 3/11 shocked Japan and the world. The earth quake, Tsunami, and radioactive fallout damaged the Japanese and her economy beyond imagination. This hazard made us to judge the security, energy, Nuclear Plant, damage control, and how to live. Deeply we have to reconsider the relationship between Japan and the Asia and that of the world.

We would like to invite students from Japan and Korea to discuss the roadmap to the East Asian Common House from the viewpoint of "long perspective and partnership" at the beautiful and quiet Shonan Kokusai Mura.

We made five groups to discuss and to make a workable plan; Group A: Historical Perspective, Group B: Economics, Group C: Democratization, Group D: Security, Group E: Environmental Problems (English is working language).

Three days are not enough to discuss and present your opinion on the topic in detail, but we are sure this will be a good start for your future study. Please prepare well and be ready to discuss actively.

## 組織委員 Organizing Committee Members

梶島 洋美	横浜国立大学准教授	Hiromi Kabashima	Associate Professor, Yokohama National University
小久保康之	東洋英和女学院大学教授	Yasuyuki Kokubo	Professor, Toyo Eiwa University
鞠 重鎬	横浜市立大学教授	Joong-Ho Kook	Professor, Yokohama City University
黒川 修司	東京女子大学教授(委員長)	Shuji Kurokawa	Professor, Tokyo Woman's Christian University (Chair)
林 載桓	青山学院大学助教	Jaehwan Lim	Assistant Professor, Aoyama Gakuin University
中村 虎彰	ソルブリッジ国際大学 又松大 専任講師	Toraaki Nakamura	Full-time Lecturer, SolBridge International School of Business, Woosong University
野口 和彦	東海大学教授	Kazuhiko Noguchi	Professor, Tokai University
大芝 亮	一橋大学教授	Ryo Oshiba	Professor, Hitotsubashi University
押村 高	青山学院大学教授	Takashi Oshimura	Professor, Aoyama Gakuin University
白鳥 浩	法政大学教授	Hiroshi Shiratori	Professor, Hosei University
滝田 賢治	中央大学教授	Kenji Takita	Professor, Chuo University
武藤 誠	(公財)かながわ国際交流財団 常務理事	Makoto Mutoh	Managing Director, Kanagawa International Foundation (KIF)



## 分科会 A 東アジア文化交流史

講師：押村 高、小久保 康之

東アジア各国の文化は、ともに中華文明や儒教、そして西洋の強い影響を受けながらも、多様な容姿を呈しています。そこで本セッションではまず、歴史や文化からみた各国の個性と東アジアの共通性とは何かについて考察します。

さらに、「相互理解に支えられた信頼関係」を築くためには互いの歴史を知ることが不可欠であるという認識に基づき、中国や朝鮮半島と日本との交流の歴史を辿りつつ、「東アジア共通史」をどのように描けば良いのか、歴史教科書対話を通じ

た和解は可能なのかについても、あわせて検討したいと思います。

ディスカッション・テーマの一例：われわれが「日本独自の文化」と考えているものは、はたして「日本だけのもの」なのだろうか。

### 〈参考文献〉

- ①劉傑ほか『国境を越える歴史認識』東京大学出版会、2006年。
- ②朝日新聞取材班『歴史は生きている』朝日新聞出版、2008年。
- ③Asian Barometer <http://www.asianbarometer.org/newenglish/surveys/>

## 分科会 B アジアの経済連携

講師：梶島 洋美、鞠 重鏡

TPP（環太平洋経済連携協定）は、はたして国家間協力なのでしょうか、それとも国家間競争なのでしょうか。

アジア太平洋地域では長らく、互いに拘束することなく各国政府の自主性に任せられた経済自由化を APEC など求めてきました。緩やかな経済連携は冷戦後のアジア秩序形成の1つの軸をなし、それがアジアでの持続的な国際関係を可能にしてきたものの、一方でそのようなルール化や組織化を避ける形こそが、自由化の進展を阻害してきたという指摘もあります。ここ数年、拘束力を伴った二国間 FTA（自由貿易協定）や TPP がアジアで競って取り上げられるようになった理由の1つはここにあると言えるでしょう。他方、安保、外交関係や 2007 年以降の世界金融危機もアジアの地域経済連携に影響を与えてきました。

本分科会では、国際政治経済上の要因と国内事情から相互に協力と競争を求めて経済連携する状況を整理し、地域経済連携の意義を自分なりに述べられるようになることを目標とします。議論は、① FTA、TPP、APEC 等がいかなる背景から出

てきたのか、②それらの経済連携の枠組みは現在どのような問題を抱えているのか、③地域経済連携をどのような理論枠組みで、あるいはどのような視点から説明したら説得的なのか、という3つの柱にそって進められることとなります。分科会での議論に積極的に参加できるように参考文献を事前に読んだりしながら準備をしておいてください。

### 〈参考文献〉

- ①田所昌幸「アジアにおける地域通貨協力の展開」添谷芳秀ほか編『現代東アジアと日本1 日本の東アジア構想』慶應義塾大学出版会、2004年、113-137頁。
- ②宗像直子「日本の FTA 戦略」添谷芳秀ほか編『現代東アジアと日本1 日本の東アジア構想』慶應義塾大学出版会、2004年、139-166頁。
- ③深川由起子「自由貿易協定（FTA）の制度的収斂と東アジア共同体」浦田秀次郎ほか編『東アジア共同体の構築2 経済共同体への展望』岩波書店、2007年、329-359頁。
- ④山本吉宣「地域経済統合の展開」『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年、219-257頁。

## 分科会 C アジアにおける民主主義のゆくえ

講師：白鳥 浩、林 載桓

到達目標：アジアにおける「民主主義」の総合的な検討と理解を目指す。

現在、アジアのほとんどすべての国家は、自らの体制が「民主主義」であることを主張する。これらの諸国のうちには、人権の観点から、アメリカなどによって、「民主主義」ではないと評価される国家も存在する。しかしながら、しばしばこれら国家は自らの体制が独特な価値を持った「アジア的民主主義」であることを主張する。はたして「アジア的民主主義」は存在するのか。この問題は、「民主主義」概念は何を意味するのかという本質的な問いをわれわれに投げかけている。また、「民主主義」は平和な国際関係に寄与するという言説もながく信じられている。国際化の進む現在、新しい「民主主義」概念の再構築が期待されていると考えられる。この新たな「民主主義」概念は、単にアジアの特殊な地域の問題にとどまらず、人権、少数者の権利、環境問題、ひいては地域の安全保障などへとその裾野を拡大し、国際化していく世界の中での新しい「民主主義」概念の再定式化を我々に突きつけている。海外における体制の異なる分断国家の存在や、近年のミャンマーの変容のみ

ならず、日本国内における東日本大震災への対応についての政府の機能不全は、そこにおける民主主義の問題という、アジアにおける共通の課題に対する考察を要請している。アジア発のグローバルな意味を持つ「民主主義」概念の定式化に向かって、熱意ある参加学生の積極的な貢献を期待する。

### 〈参考文献〉

- ①ダニエル・A.ベル『「アジアの価値」とリベラル・デモクラシー—東洋と西洋の対話』風行社、2006年。
  - ②アレンド・レイブハルト『民主主義対民主主義—多数決型とコンセンサス型の36ヶ国比較研究』勁草書房、2005年。
  - ③ブルース・ラセット『パクス・デモクラティア：冷戦後世界への原理』東京大学出版会、1996年。
  - ④岩崎育夫『アジア政治とは何か：開発・民主化・民主主義再考』中央公論新社、2009年。
- \* どれか日本以外のアジアのふたつの国ないし地域について、事前に調べておいてください。

## 分科会 D 東アジアの安全保障環境

講師：滝田 賢治、野口 和彦

1990年代には冷戦の勝利者としての愉悦感に浸っていたアメリカは、9・11テロとそれに続くアフガン・イラク戦争、2008年のリーマンショックを契機にその覇権性を弱め始めた。それは同時に、冷戦終結を一大契機として展開し始めた現代グローバル化の波に乗った新興国——BRICS や NEXT-11 に象徴される——の経済的ばかりか政治・軍事的な台頭によっても影響を受けている。特に中国は、1990年代の平和台頭路線から膨張政策に転換——それは19世紀末から20世紀初頭のドイツの世界政策を想起させるが——させ、世界経済への圧倒的影響力ばかりか、アジア太平洋地域での軍事的影響力を急速に高めている。特に20世紀に入るや中国は国防費を急膨張させ、東シナ海・南シナ海の領有権を巡り周辺諸国との緊張を高めている。

ているのかを多角的に検討する。具体的には、①中国の急速な軍事的膨張の現実とその背景を検討し、②それに対してアメリカがいかなる戦略的変更を進めているのかを多面的に考察し、最後に③このような東アジアの安保環境の変化に日本がいかなる政策を採用すべきかを議論したい。

### 〈必読文献〉

- ①孫崎亨『不愉快な現実—中国の大国化、米国の戦略転換』講談社現代新書、2012年。
- ②防衛省防衛研究所編『中国安全保障レポート』
- ③ Congressional Research Service, CRS Report for Congress "Pivot to the Pacific? The Obama Administration's Rebalancing Toward Asia", [www.crs.gov](http://www.crs.gov)

### 〈参考文献〉

防衛省防衛研究所編『東アジア戦略概観 2012』ジャパンタイムズ、2012年。

本分科会では、このような中国にアメリカや ASEAN 諸国がどう対応しようとし

## Group E

### The Social Consequences of Environmental Problems

Lecturers: Ryo Oshiba, Shuji Kurokawa, Toraaki Nakamura

Rapid economic growth in China and East Asia has given rise to serious social consequences that have resulted from environmental problems in this region. It has caused environmental problems such as urban environment, deforestation, overexploitation of fishery resources, energy and global warming, and water resources. In addition to this social conflicts have arisen such as the undermining of tribal people's rights caused by dam projects.

Both global and regional cooperation as well as efforts by individual countries are required to cope with the environmental problems of East Asia.

What kind of efforts have been made by the international organizations, e.g. the United Nations, the World Bank and the Asian Development Bank; by the national governments, e.g. Japan, Korea and China; and by the business community and international and local NGOs, to deal with environmental problems and their social consequences in East Asia? Do these various stakeholders succeed in creating regional cooperative frameworks for dealing with environmental problems and their social consequences?

### Reference:

- 1.The World Bank, World Development Report 2010: Development and Climate Change, "overview (changing the climate for development)".
- 2.The World Bank, Atlas of Global Development: A Visual Guide to the World's Greatest Challenges (3rd edition, 2011), chapter of "environment".

## 参加申込方法 Application Information

**参加資格：**東アジアの政治や文化、開発などに興味を持つ大学生、大学院生および若手社会人。専門分野は問いません。使用言語は日本語または英語です。通訳はつきません。

**期間：**2012年12月7日(金)～9日(日)

12月7日の午後5時から開会式会場前にて受付を行います。大学等の理由により遅れる場合には、遅くとも開会式の15分前までに受付を完了してください。なお、受講生は全プログラムに参加するものとします。

**場所：**湘南国際村センター

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39

<http://www.shonan-village.co.jp/>

**定員：**90名

**費用：**23,000円 (留学生10,000円 ※但し、選考があります。)

**修了証：**本セミナーを修了した参加者に対して組織委員会から修了証が交付されます。

**宿泊：**同性での複数人部屋 (2～6名)

**応募方法：**所定の申込用紙に必要事項を書いて、FAX、郵送もしくはE-mailにて**11月1日午後5時必着**でお申し込みください。申込用紙は、湘南国際村学術研究センターのホームページからもダウンロードできます。(http://www.k-i-a.or.jp/shonan/incolle/のページで[詳細はこちら](#)をクリック)

**合格通知：**応募者は組織委員によって審査され、合格者には11月22日までに「参加証」と参加費の「お振込み先銀行口座」をE-mail (incolle@kif.ac)にてお送りいたします。E-mailを受け取られましたら、11月29日までに参加費をお支払いください。

**キャンセルについて：**都合により参加を取り消される場合は、すみやかにセミナー事務局迄ご連絡下さい。所定のキャンセル料を差し引いた額を返金致します。

**保険について：**本セミナー期間中の施設(建物)の損壊に係る傷害には保険が適用されます。それ以外については保険の対象外となります。

**お問合せ/お申込み：**

(公財) かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター  
インカレ国際セミナー事務局 (担当：佐々木、タバ)

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39

湘南国際村センター内

TEL：046-855-1821 (9:00～17:00 土日祝日をのぞく)

FAX：046-858-1210 E-mail：incolle@kif.ac

URL：<http://www.k-i-a.or.jp/shonan/>

**Qualification：** Undergraduate/graduate university students of any specialized field, or young workers interested in East Asian politics, culture and development. This seminar will be conducted in Japanese or English. No interpretation will be provided.

**Date：** 7-9 December 2012

Registration begins at 5:00 pm on 7 December. If you will be late for it due to a university etc., please complete registration at least 15 minutes before the opening ceremony. Participants are expected to stay for the entire duration of the seminar.

**Venue：** Shonan Village Center

1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198

<http://www.shonan-village.co.jp/svc/>

**Number of participants：** 90

**Fee：** 23,000 yen (10,000 yen for foreign students. Note that there will be a selection process.)

**Certificate：** Each participant will receive a certificate upon successful completion of the seminar.

**Accommodation：** Room sharing with 2 to 6 people of the same sex.

**How to apply：** Please fill in the application form and send it to Secretariat by post, FAX or E-mail, **no later than 5:00 pm 1 November**. The application form can be downloaded on Shonan Village Academic Research Center website. (<http://www.k-i-a.or.jp/shonan/incolle/>)

**Notification of admittance：** Applications will be reviewed by the Organizing Committee. Candidates will be notified by E-mail (incolle@kif.ac) around 22 November. Please make payment of your participation fee by bank transfer by 29 November. Details will be sent to the selected participants directly by E-mail.

**Cancellation：** If you have to cancel your attendance, please contact the Secretariat as soon as possible. Participation fees will be refunded after deduction of cancellation fees and bank charges.

**Insurance：** Insurance covers the injury concerning destruction of the building in this seminar period. Personal accident insurance is not applied other than this.

**Secretariat：**

Kanagawa International Foundation (KIF)

Shonan Village Academic Research Center

(Program Officers: Akie Sasaki or Jigyana Thapa)

1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198

TEL: 046-855-1821 FAX: 046-858-1210 E-mail: incolle@kif.ac

Office hours: Monday - Friday 9:00-17:00 (except national holidays)

(Should you have any questions, please contact above.)

## 会場のご案内 Access

### ●バスをご利用の場合

▶ JR逗子駅前1番乗り場より16系統、26系統「湘南国際村センター前」行きバスに乗車、終点の「湘南国際村センター前」下車。(所要時間約30分、料金340円)

※このバスは2～3分後に京急新逗子駅前1番乗り場に停車します。

▶ 京急汐入駅前2番乗り場より16系統「湘南国際村センター前」行きバスに乗車、「湘南国際村センター前」下車。(所要時間約30分、料金370円)

### ●タクシーをご利用の場合

▶ JR逗子駅前タクシー乗り場より「湘南国際村センター」まで約15分。

料金約2800円。

<http://www.shonan-village.co.jp/access.html>

